



日頃よりやよい図書館をご利用いただきましてありがとうございます。

春を迎えて、今年もまた出会いと別れの季節となりました。今年度お世話になりました方々に感謝しつつ、どなたにとっても、4月からの新年度が充実した毎日になりますように願っております。

小学生のための春休みスペシャルおはなし会&本の紹介

3月29日(土)・30日(日) 2階 教養室

★午前11時~11時30分★ と ★午後3時30分~4時★

2日間、全部で4回おはなし会を行います。毎回ちがうおはなしです。絵本を読むだけではなく、色々な種類の本の紹介(ブックトーク)も行います。春休みに何か面白い本を読んでみたいと思っている人は、ぜひあそびに来て下さい!きっと読んでみたい本が見つかりますよ!

俺の一冊・私の一冊

中央本町地域学習センター・やよい図書館で働くスタッフが、それぞれ自信を持って

おすすめする1冊をご紹介します。みなさん、ぜひ読んでみてください!

館長の一冊

『なぜ孫悟空のあたまには輪っかがあるのか?』 中野美代子/著 岩波ジュニア新書

『孫悟空』を読んだことがありますか? 三蔵というお坊さんがありがたいお経を頂くために、お供といっしょに苦難に満ちた旅をするというあらすじは誰もが知っていますよね。この本は『孫悟空』を読むためのガイド本です。孫悟空は龍の神通力を持つスーパーモンキー。どんな困難にも知恵を働かせ、見事に打開して三蔵を守ります。ではどうして龍の力を持っているの? どうして三蔵のお供はサルとブタとカッパなの? 唐から明の時代まで、出来上がるのに900年もかかったという壮大な物語のしくみを覗いてみませんか?

俺の一冊(小滝)

『犬の生活』 高橋幸宏/著 JICC出版局

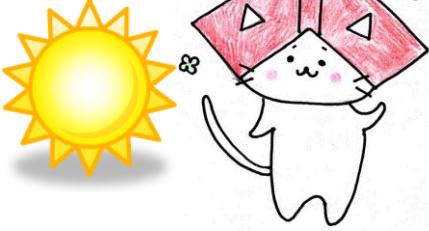
著者はYMOのドラマーであり「Rydeen」の作者であり、そのドラミング・センスにおいて僕が影響を受けた人物。そんな彼が初めてエッセイを書くということで僕が高校生の頃、一も二もなく買ったのがこの本。読んでみて驚いた。僕がこれまで抱いてきた「冷酷・冷徹・冷静」のイメージとは正反対の人物だった。末っ子の甘えん坊で、飛行機が怖くて、小津安二郎が好きで、そして犬好きなどても人間味溢れる人間だったのだ。人間、見た目に騙されることなき。皆さんも気になる有名人がいたら、一度その方の著作物を読むことを強くお奨めする。

私の一冊(青山)

『ムーミン谷の冬』 トーベ・ヤンソン/作・絵 講談社

2014年は、ムーミンの生みの親、トーベ・ヤンソンの生誕100周年の年です。キャラクターグッズとしての「ムーミン」しか知らないという方は、ぜひこのタイミングで児童書のムーミンシリーズを手に取ってみてください。私がシリーズの中でも特に気に入っているのが本書です。冬眠中、一人目覚めてしまったムーミンが初めて見る冬の景色、出会うおかしな生き物たち。冬から春へと季節が移る中で、まるで氷が溶けるかのように精神的な変化を見せるムーミン谷の住人。児童書ですが、大人が読んでもはっ! とするようことを登場人物が言い出すところが、シユールで面白い。くせになる世界観がおすすめです。

読書の窓 気象



WMOという言葉をご存知でしょうか? 一体何かというと World Meteorological Organization(世界気象機関)の頭文字です。気象は世界レベルで動いています。気象を知るためにには、局地的な情報だけでなく、世界の気象を知る必要があります。世界気象機関は加盟国との気象情報・資料をスムーズに交換することを奨励する機関です。

3月23日は世界気象機関が発足した日を記念して世界気象デーとして制定されました。毎年テーマを設け、気象知識の普及に努めています。今回は天気に関する本を紹介します。普段は心配の種である天気の、面白い一面に気づく作品をどうぞご覧ください。

『平安の気象予報士紫式部』

石井和子/著 講談社

源氏物語を気象予報士の観点から読み解きます。たとえば源氏物語に出てくる「野分」とは? 紫式部が過ごした平安時代の冬はどんな様子? 著者は天気図・京都の地図などを示しながら、当時の天気を推測します。読んでいくと紫式部がかなり正確に当時の天気を「源氏物語」に書きこんだことが分かります。

『大人の絵本』

宇野千代/著 角川春樹事務所

東郷青児による淡い色彩の挿絵がぴったりな短編集です。主人公は女性、男性、子どもとさまざまですが、まるで打ち明け話をされているようで、ときに読み手をゾッとさせます。快晴、雨、霧などさまざまな天気で物語が繰り広げられますが、そこは「大人の絵本」。色っぽく、少し残酷な世界を覗いてみてください。

『たいようまつり』

風木一人/作 イーストプレス

今日は太陽まつり! 山から海あちらこちらからたくさんの太陽が昇ってきました。みんなで輪になって踊ります。間違ってうっかり出てきてしまった月も一緒に踊って歌って楽しいおまつりです。たくさんの陽気な太陽が出てきて、心もぽかぽかして楽しくなる一冊です。

『世界最大の気象情報会社になった日』

石橋博良/著 講談社

ウェザーニューズという会社をご存知でしょうか。世界最大の民間の気象情報会社です。商社を退職した著者がなぜ気象情報会社に勤め、どのように社員5名の会社を世界一の会社に成長させたかを記したノンフィクションです。気象情報をあらゆる方に届けるために戦い続ける様子をご覧ください。

『雨のことば辞典』

倉嶋厚/監修 講談社

雨に関する言葉だけを集め、50音順に並べた辞典です。また言葉だけでなく、雨の降るしきみや、和歌に詠まれた季語の解説など、コラムも充実しており、ちょっとした読み物としても楽しめます。

雨の名前を知り、雨の日をより身近なものとして楽しんでみませんか?

☆読書の窓☆

歌舞伎「鳴神」

市川団十郎が家の芸として定めた18の演目、歌舞伎十八番。その一つが「鳴神」です。帝を恨んで、秘法によって雨を封じてしまった鳴神上人。その秘法をあばき、日照りを終わらせるために遣わされたのが、絶世の美女、雲の絶間姫。二人の掛け合いが楽しい作品です。また、雨や雷を表現するための歌舞伎独特の音にもご注目ください。